

世界の最新動向を学ぶ

滋賀県 水ビジネスでセミナー



嘉田知事

滋賀県は10月24日、びわ湖環境ビジネスメッセ会場

で「しが水環境ビジネスセミナー」世界の水ビジネス

最新動向と先行事例を学ぶ」と題したセミナーを開

き、世界的な水ビジネスの最新動向や先進事例などについて紹介した。

同県では、年度内に官民連携のプラットフォーム

「仮しが水環境ビジネス推進フォーラム」の設立を

予定している。会場には約70人が集った。セミナー

には、嘉田由紀子知事も出席。水環境関連産業・研究機関

の集積やこれまでの琵琶湖での水環境保全の取り組み

を活かした水環境ビジネスの海外展開に対する期待を述べた。

セミナーの冒頭、滋賀県

商工観光労働部の中山久司次長が、官民連携プラット

フォームの「しが水環境ビジネス推進フォーラム」の

立ち上げについて紹介しな

がら、「県内総生産に占める第二次産業の割合が41・2%という全国一のものづくり県のポテンシャルを活かし、水環境ビジネスに官民一体となってさらなる取り組みを進めたい」とあいさつした。

基調講演ではグローバルウォータ・ジャパンの吉村和就代表が「世界水ビジネスの最新動向と参入機会」

をテーマに、世界の水ビジネスの潮流と日本のとるべき戦略について持論を展開した。

続く企業プレゼンテーションでは、ナガオカの三村等代表取締役CEOが「水ビジネスの海外展開戦略

(関西HANDsの取り組み)」、日吉の村田弘司代表取締役社長が「独自の水環境ビジネスの展開をめざす

「環境問題に国境は無い」としてニッチな分野でオンラインを自指す戦略を採用していることを紹介した。

三村氏は「海外での水ビジネス展開には素早い意思決定と企業連携が不可欠」として国際的な産官学連携の重要性を強調、村田氏は

「環境問題に国境は無い」としてニッチな分野でオンラインを自指す戦略を採用していることを紹介した。

経済産業省近畿経済産業局総務企画部の高瀬幸子参事官(環境・エネルギー海外展開担当)は「関西・ア

シア環境・省エネビジネス交流推進フォーラム(Team E-Kansai)の水ビジネス支援」について説明。滋賀県商工観光労働部商工政策課の廣脇正機課長は「しが水環境ビジネスの推進」について紹介した。

「環境問題に国境は無い」としてニッチな分野でオンラインを自指す戦略を採用していることを紹介した。

経済産業省近畿経済産業局総務企画部の高瀬幸子参事官(環境・エネルギー海外展開担当)は「関西・ア

シア環境・省エネビジネス交流推進フォーラム(Team E-Kansai)の水ビジネス支援」について説明。滋賀県商工観光労働部商工政策課の廣脇正機課長は「しが水環境ビジネスの推進」について紹介した。

「環境問題に国境は無い」としてニッチな分野でオンラインを自指す戦略を採用していることを紹介した。

経済産業省近畿経済産業局総務企画部の高瀬幸子参事官(環境・エネルギー海外展開担当)は「関西・ア

シア環境・省エネビジネス交流推進フォーラム(Team E-Kansai)の水ビジネス支援」について説明。滋賀県商工観光労働部商工政策課の廣脇正機課長は「しが水環境ビジネスの推進」について紹介した。

「環境問題に国境は無い」としてニッチな分野でオンラインを自指す戦略を採用していることを紹介した。

経済産業省近畿経済産業局総務企画部の高瀬幸子参事官(環境・エネルギー海外展開担当)は「関西・ア

環境革新の拠点育成へ

兵庫県 膜工学を軸にプロジェクト始動

兵庫県は10月22日、兵庫県民会館で「革新的膜工学を核とした水ビジネスにおけるグリーンイノベーションの創出プロジェクト」のキックオフイベントを開催。産官学の関係者約300人が参加した。

同プロジェクトは、神戸大学先端膜工学センターを中心に、神戸大学、兵庫県立大学に国内外の研究者を集積・育成。大型放射光施設SPRING-8やスーパーコンピュータ「京」等の科学インフラを活用した

革新的分離膜の開発・産業化を推進し、同県を水ビジネス分野におけるグリーンイノベーション拠点に育てることを目指した。文部科学省が公募した「地域イノベーション戦略支援プログラム」に同プロジェクトが採択され、今後5年間

で約7億円の助成が行われる。冒頭、金澤和夫副知事があいさつに立ち「経済規模全体が縮んでいくのではないかとという大きな危機感の中で、水ビジネスが注目されているが、その実現には難しい課題があるだろう。



金澤副知事



福田学長

しかし、その分野の技術・研究だけでなく、ハード面やソフト面、業界や産官学の垣根を越えて知恵を集め、有機的に結びつけることで解決策が見えてくるはずだ。今日集まっていたいた多くの方々も「自分たちがどのように関わっているか」を考えながら、有意義にイベントを過ごしてほしい」と呼びかけた。

福田秀樹神戸大学学長は、同大学の膜に関する研究を紹介し、膜というキーワードの横へのつながりは広く、新しい切り口から研究が広がっていく可能性がある。本学だけでなく、兵庫県内の知識や科学インフラを活用することで、日本における膜研究をさらに推

し進めてほしいと語った。基調講演では、吉村和就グローバルウォータ・ジャパン代表が「世界の水ビジネスの現状と今後の展望」をテーマに講演した。

吉村代表は「日本は高性能な製品を作ることには上手だが、海外では高性能だけでは浸透しにくいのが実情。勝てる膜技術になるために、膜単体で売るのでなく、膜の自己診断や制御の技術をワンセットにして売り込むことを考えるべきだ」と指摘する。同様に、「研究段階であっても国際会議等で発表することが大切。世界に商品売り込むきっかけになるし、世界市場が求めるニーズを直接聞き、今後の開発に活かす貴重な場となる」と助言。同プロジェクトの今後に期待を寄せた。

その後、プロジェクトディレクターの梶原賀敬・新産業創造研究機構部長がプロジェクトの事業概要、神戸大学大学院の松山秀人教授と兵庫県立大学の武尾正弘准教授が研究概要、神鋼環境ソリューション商品市場・技術開発センターの豊久志郎水・汚泥技術開発部長、積水化学工業環境・ライフラインカンパニーの池本陽一技術・開発センター京都研究所長が参画企業の取り組みを紹介した。